



新しい年を迎えました。巳年です。巳年は変化発展の年であり、次の段階へと一歩踏み出す発展の年といわれます。さらに癸巳の年です。癸(みずのと)とは、忍耐のなかにあって発展への時期を見計らっているという意味があります。蛇は脱皮することから再生を象徴しており、新しい自分に生まれ変わる、人生の転機とすべき年なのです。

振り返ってみると、前回の巳年には小泉内閣が誕生し、前々回の巳年には昭和から平成へと移りました。今年には安倍政権となり期待はあるものの、社会は不安の様相を呈し、先々の見えない時代です。何より子どもが病気を抱えていれば心配は尽きません。自分なりの目的や幸福を見出し、心を満たしていかなければなりません。

お互いに、良い生活への転機となる1年になると信じ、前を向いて歩んでいきましょう。

<第209回 11/11 ほほえみの会 >

3人が参加しました。

▽ フォローアップ外来について話題となりました。こども病院の紹介状を持って 県立総合病院に行ったが、散々待たされた挙句に「僕が診なくてもいいんじゃない」といって何も診てくれない。退院後異常がないか、エコー検査もしてほしいと思って行ったが、県総の先生は悪いところがないと積極的に診てくれないようだ。これから長期のフォローアップが心配。

<第210回 12/9 ほほえみの会 >

4人が参加しました。

<第211回 1/13 ほほえみの会 >

7人が参加しました。

▽ 3歳男の子、急性リンパ性白血病。インフルエンザの予防接種をした後に発疹が出たため掛かり付け医で血液検査をしてもらい異常が分かった。それ以前からお腹が痛いとか胸が痛いと言っていて何回も病院に行っていたが分からなかった。下の子が生まれたこともあり赤ちゃん返りをしていると思ひ叱っていた。今思えば顔色も悪かった。なぜ早く気付いてあげられなかったかと悔やむ。 年中組の長男と生まれたばかりの子どもの面倒が大変。

▽ 小学1年女の子、「ブラスティック プラズマティット デントリック セル ネオプラズム」という非常に珍しい病気。リンパ内の細胞腫瘍。本人は持久走大会に出るほど元気いっぱいだったが、突然腕の皮膚にアザが出来た。近所の皮膚科では打撲だろうといわれたが、変わらないので総合病院で生検をしてもらったところ、悪性リンパ腫の疑いがあるとのことでこども病院に。精密検査で病名が判明したが、症例は極めて少なく治療法も確立されていない。治療実績から白血病と同じ化学療法に入った。医師から「治らない病気ではない」と言われたのが心の支え。本人は病棟で元気だが、家に帰りたいと言われると辛い。

次回 は2月10日(日) 11時からです  
ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mail アドレス k\_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>